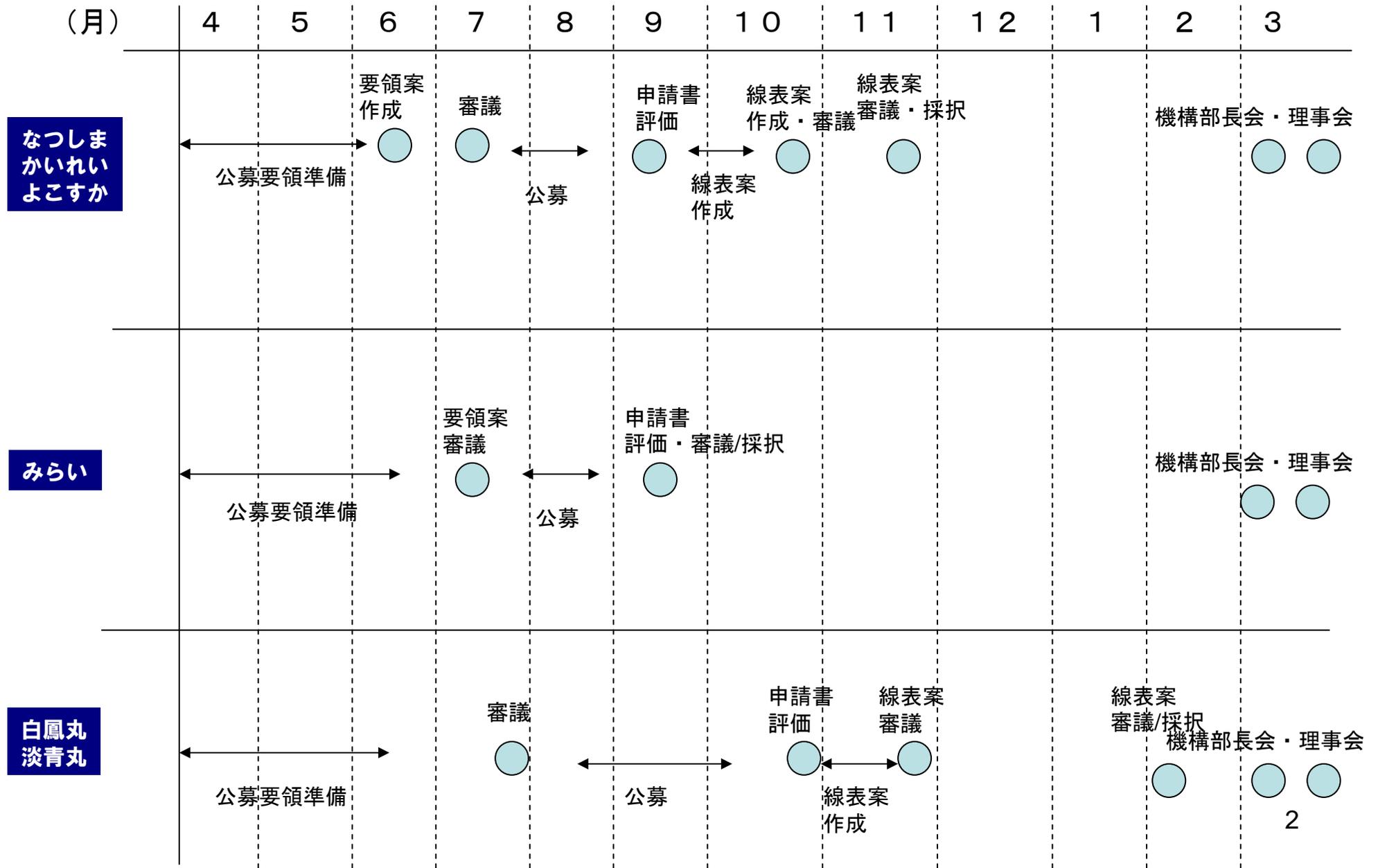


# 海洋研究船の運用体制・形態について (検討用資料)

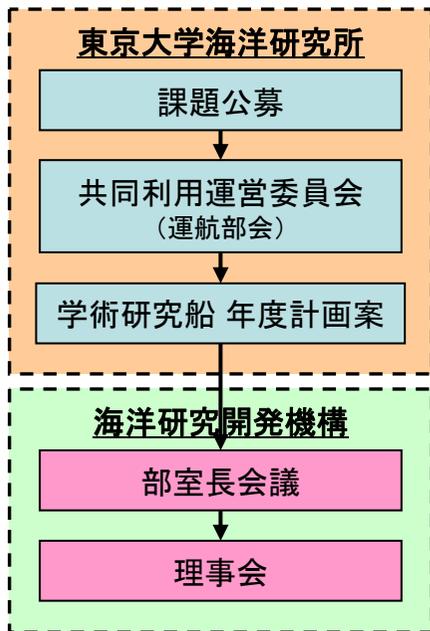
平成19年1月25日  
文部科学省 海洋地球課

# 海洋研究開発機構所有の研究船の運用スキーム



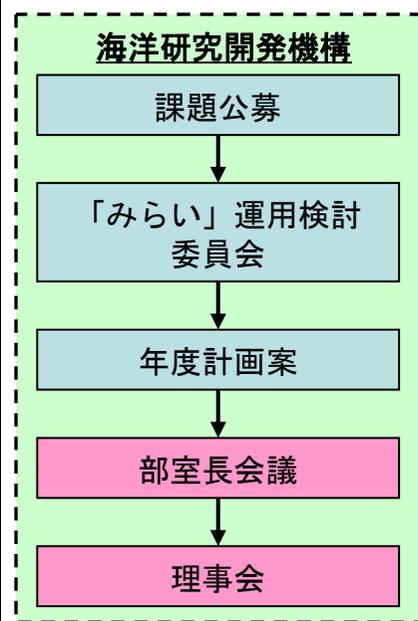
# 海洋研究開発機構所有の海洋研究船の課題採択スキーム

## 白鳳丸・淡青丸



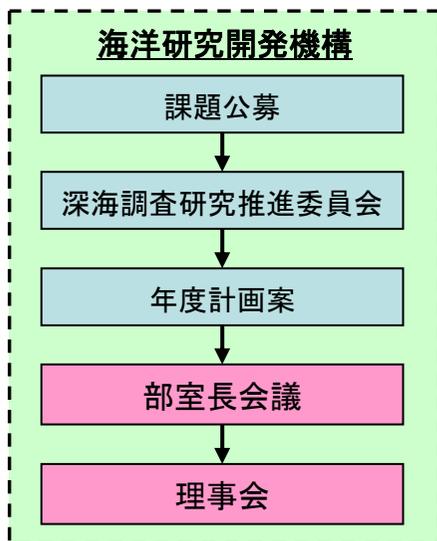
- ◆ 東大海洋研が事務局を行う学術研究船共同利用運営委員会が課題を公募。
- ◆ 課題の採択に当たっては、東大海洋研等大学関係者及びJAMSTECからなる共同利用運営委員会にて審査。
- ◆ 共同利用運営委員会が作成した研究船の運航に関する年度計画案を尊重しつつ、JAMSTECにおいて運航計画を作成・確定。

## みらい



- ◆ 大学関係者、公的研究機関有識者からなる「みらい」運用検討委員会にて当該年度の公募要領の策定、課題公募。
- ◆ 「みらい」運用検討委員会にて課題選定を行い、航海計画案を審議、策定。
- ◆ 運航計画をJAMSTEC部室長会、理事会にて確定。

## なつしま・かいいい・よこすか



- ◆ 深海調査研究推進委員会（下部組織である計画委員会、実施計画調整部会を含む）にて公募要領の作成、一般公募、審査、航海計画案の作成。
- ◆ 運航計画をJAMSTEC部室長会、理事会にて確定。

 : 外部有識者により構成された委員会

 : JAMSTEC職員により構成された委員会

# 現行の運用スキームによるメリットと課題

## 【メリット】

- ・ 公募が複数あるため、研究者が公募に複数回応募可能。
- ・ 各船の特性にあわせた公募方法により、研究者のニーズにあった研究航海が可能。
- ・ 学術研究に対して研究者の希望を反映できるシステムとなっている。  
(淡青丸・白鳳丸については、課題が採択された研究者の旅費等を支給)

## 【課題】

- ・ 同一海域あるいは近い海域への重複採択が生じ、効率的な運航ができない場合がある。  
(「みらい」インド洋航海 (H18.10.16-H18.12.13)、「白鳳丸」インド洋・地中海航海 (H18.11.2-H19.3.5))
- ・ 同一課題提案者の重複採択が行われる可能性がある。  
(委員会ごとに応募機会があるため、3つの委員会に同様の研究内容で採択される可能性がある)
- ・ 別委員会の採択基準の為、課題審査・採択基準の不公平、不透明感がある。  
(委員会ごとに採択基準があるため、統一された合否の基準がない)
- ・ 海洋研究船で取得したデータの保有権・公表ポリシーが統一されていない。
- ・ 海洋研究船でデータを取得した後、陸上研究施設を利用できない場合がある。
- ・ 首席研究員の権限と役割が不明確。
- ・ 現行の運航日数で適切な研究を行うためには、支援職員、事務経費等の充実が必要。